

卒業後の進路をコーディネートする

～コーディネーターだからこそできる進路指導～

◇市立養護学校◇

市在住の**肢体等に障害のある児童生徒**が通う特別支援学校

(小学部:10名、中学部:5名 高等部:9名(うち3年生6名) 計24名)

◇養護学校のコーディネーターのお仕事

コーディネーター(**Co**) 5名+学校作業療法士(**OT**) 1名 ⇒愛称:**CoOT**(コート)

(校外支援)⇒主にA教諭、B教諭

- ・教育相談……①肢体不自由や発達障害等に関する相談(訪問または来校)
- ②訪問交流(市内小中学校で肢体不自由のある児童生徒対象)
- ③移行支援に関すること(幼→小 小→中 中→高)

センター的
機能

(校内支援)⇒主にC教諭、D教諭、**E教諭**+OT

- ・クラス相談会の実施……各クラスの課題や問題点についての相談会
- ・授業支援……集団授業や、個別の自立活動への支援
- ・研修会の実施……全教職員対象の研修、新転任者対象の研修 など

➡(進路指導)⇒**E教諭**

- ・高等部卒業後の進路(生活介護、就労継続支援B型 など)

※各学部や保護者とも連携して、早い時期から計画的に実施

◇コーディネーターが進路指導をするメリット

- ①比較的自由で動くことが可能(施設訪問等、校外での情報収集活動に有効)
- ②全校生の実態を把握しやすい(CoOT内での情報交換が活発)
- ③各学部や保護者との連携が容易

◇2019年度の実践

- ・児童生徒および保護者の施設見学、実習についてのルール作り(実施時期や回数等について)
- ・保護者に施設見学、実習の希望調査を実施(学期ごと)
- ・施設見学を小学部、中学部にも拡大(保護者に積極的に見に行ってもらおう)
- ・9月、10月に施設訪問などの情報収集活動を実施(おみに水・金の午後)

(おもな成果)

- ・施設見学、実習を希望調査に基づき計画的に実施できた。
- ・小、中学部の保護者にも、高等部卒業後の進路について、イメージしてもらうことができた。
- ・積極的な情報収集活動により、有益な情報を得ることができた。
- ①事業所Aの理事長から、来年度新たに事業所を立ち上げる話を聞いた。
- ②高3年生6人中5人が12月末までに進路が内定することになった。

(課題)

担当者としての課題

- ・それでもまだまだ内定を獲得する時期が遅い。(保護者の声)
- ・まだ全員の進路が確定していない。(1/15現在)
- ・保護者との意見の相違をどのように調整するか(障害受容なども含めて)

地域の課題

- ・市内で受け入れ可能な生活介護施設が不足している⇒他市町の施設を利用
- ・放課後等デイサービスを併設する生活介護施設が無い

◇実践の中で自分が学んだこと

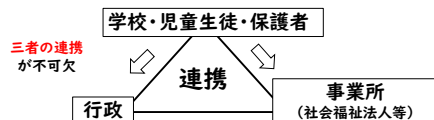
- ・必要な情報は、自ら動いて獲得するべし!
- (ただ待っているだけでは何の情報も入ってはこない)
- ・事業所訪問は、決定権者に合うべし!
- (新たな計画は他の従業員では話してくれないこともある)
- ☆自由に動けるコーディネーターだからこそ可能☆

◇実践活動の今後に向けて

- ・本校のことについて、各方面にもっと知ってもらう
(本校の教育、児童生徒のこと、センター的機能、卒業後の進路 など)
- ・11月末までに全員の進路決定を目指す
- ・進路に対する早い時期からの意識づけ
(小・中学部で見学⇒高等部で実習)
- ・自校教職員にもしっかりと啓発(特に小・中学部)

◇地域支援づくりへの提案

肢体等に障害のある明石の子どもたちが、卒業後も明石で暮らせるようになるためには、**生活介護事業所の不足解消**が必要



養護学校のコーディネーターとしてできること……

- ・様々な機会を見つけ、事業所や行政への働きかけること
- (行政の施策として動いてもらえるよう、訴え続ける)